

「権利と義務 3」

～神の協力者～

創世記 22 : 6 - 13

■ あなたの思いはどこから来ていますか？

蛇口から水が出ることは私たちにとっては当たり前のことです。しかしそのような文明を驚くような場所で生活していた人がいたとします。もし、その人が始めて水洗トイレを見たらどんな行動をとるでしょうか？もしかすると溜まっている水で手を洗ったり、その水を飲もうとしたりするかもしれません。それを聞いて私たちはバカにして笑ったり、汚い！と軽蔑したりしてしまうかもしれません。しかし、その思いは一体どこから来たのでしょうか？大抵の場合、私たちは自分の経験で得た知識や感情でなんとなくそう感じる、いわゆる「気持ちの問題」という自分の物差しで物事を判断していないでしょうか。もしこのことであなたの人生が左右されているならば、非常にもったいないことです。今日、アブラハムとイサクの生き方からあなた自身の生き方を振り返り、これからの歩みに繋げていきましょう。

■ アブラハムと神様の関係から学ぶ

アブラハムはアブラムと呼ばれていたとき、神様に「わたしの示す地へ行きなさい」と言われ、新しい地へ出て行きました。その間アブラハムと呼ばれるようになるまで、彼は自分の思いで行動し失敗することもありましたが、すぐに神様の言葉に戻り歩きました。そして、そんなアブラハムに対し、神様はとことん寄り添い、アブラハムが信仰の父となるよう導かれました。アブラハムの生きた道を見ると、神様がどんな思いで人を愛しているかがよく分かります。アブラハムはその雛形といえるでしょう。神様はアブラハムを多くの祝福で満たしました。しかし、アブラハムにとって神様から約束された祝福を手にするできない事柄がありました。アブラハムとサラとの間には長い間子どもが与えられませんでした。そのうえ、やっとならされたイサクを今度は神様に捧げるように命令されました。しかもそれはアブラハム自身のいけにえとして捧げるように言われたのです。

親であれば自分のために大事な子どもを犠牲にするというのは、決してできないことのように思われます。もし、このときアブラハムが自分の気持ちに従ったとしたら、きっと聖書にあるような神様の声に素直に聞き従う姿は見られなかったでしょう。しかし、アブラハムはこの事を通して神様を恐れること、すなわち神様に信頼し全てを委ねることを決断し、信仰をもって神様の御前に行き出しました。これはアブラハムが神様に対する信仰の確信を得るだけに留まらず、神様によってアブラハムが信仰の父となるための大事な成長のプロセスだったことが分かります。

神様は全能の方ですから私たちの将来をご存知です。それにも関わらず、私たちは信仰が試される時があります。そこにはどんな意味があるのでしょうか。そして、そのような時に私たちは一体どのようにしたらよいのでしょうか。

■ ①信じるだけでなく愛するものへ～どんな境遇にあっても～

神様は人間を完璧に創造されました。しかし私たちは苦しみや悲しみの前に文句を言ってしまいます。信仰とは、アブラハムのように望んでいるものがなかなか与えられない状況にあっても、一番大事なものをとられる状況にあっても決して動じず神様を信じて生きることです。そこには愛が必要です。もし、神様に愛されていることが分かっているならば、神様との間に信頼関係ができ、

与えられる者から惜しまず捧げる者となることができず。それはイサクの姿をみても分かります。イサク自身も自分が捧げられるのだということを感じとっていたことでしょう。しかし、聖書の箇所では全然抵抗したように書かれていません。そこから自分は死ぬかもしれないという思い以上に、それでも信頼する父アブラハムの言葉に従う決断、父が信頼している神様を信頼する決断をしたのではないのでしょうか。あなたと神様との間にそのような信頼関係はありますか？

■ ②神様は解決者～責任はどちらに？～

神様と共に歩む人生の中で、あなたが神様にせよと言われたことをするとき、その責任は誰が取ってくれるでしょうか？もし、なにかあったら自分が責任を取らなければいけないという思いがあるならばそれは間違いです。責任感は大変ですが、責任は命令をした人にあります。もちろん、それは言われたことを忠実に行った場合に限ります。もし言われたことに従わず自分の思いで行っているなら、自身が責任を取らなければいけません。そのような時、私たちは不安のなかを歩まなければならなくなりますが、愛の方である神様はそんな私たちを決して見放したりはしません。いつも寄り添い、私たちが神様に立ち返るように励ましてください。立ち返るなら、神様は赦し、道を示し、責任を取ってください。私たちは目の前に見えることしか見えません。しかし、神様は私たちの将来をみて働かれています。もしあなたが今、信仰が試されていると思うなら、それは将来のあなたのために備えをしているのだということを受け取りましょう。これは、神様を信頼し歩む中で信仰の父として成長していったアブラハムと同じです。イザヤ 55:1-11 から、神様が語られるとこのことを行うなら必ず成し遂げられることが分かります。神様に全てを委ね、信頼し、みことばに従っていきましょう。

■ ③あなたは神のインスピレーション

インスピレーションとは、ひらめきという意味ですが、語源は「神の息吹を与えられること」であり、この言葉には神様の存在を表しています。私たちクリスチャンは、人々に多くの気づきを与える存在として、愛を伝える者とならなければいけません。そこで大事なのは、神様に従うために自分の権利や持論を捨てる決断です。神に従うために自分の命よりも大事な者を殺してでも従おうとする姿です。自分の思いや感情に左右されて神の息吹の場所、あなた自身を荒れ果てさせていませんか？今、主を愛し、主に信頼し従っていきましょう。全てをご存知の神様は私たちに絶えず確信を与えようとされています。今、あなたの中に突かれたら神様の存在が揺らぐようなものはないでしょうか？一度捨てたつもりでも、そこを突かれたら弱いところがあるならば、何度でもそこと向き合わなければいけません。アブラハムは神様を恐れていました。この恐れるとは、単に恐がることではなく、ヘブル語で「神様を信じること」を意味します。私たちが信仰の継承者として心をかたくなせず、何かあれば神様を離れるような人生ではなく、もっと神様に近づいて神様の声に聞き従う者、神様を証しする者となっていく必要があります。神様の思いを無にしていけません。神様を愛し信頼するために、自分の権利を捨てて立つべき場所に立ちましょう。

(要約者:平澤 瞳)

(2018年8月19日)